

2022年10月28日（金）晴れ、気持ち良い気候。⑩のコースを歩き終えて、外房線の長者町駅へ11:50に着いた。駅の待合室で昼食を採り、午後一番でこのコースを歩く。

タイトルは黒潮の潮騒をきく道となっており、九十九里浜海岸沿いのサイクリングコースを歩く形となっている。距離は4kmの直線道路、潮騒を聞きながら歩くのだろう、ワクワクする。



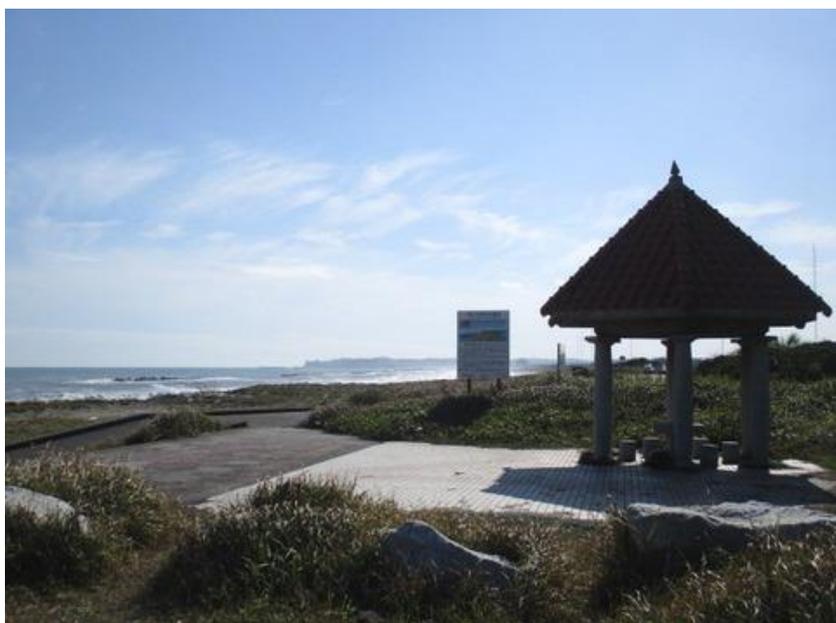
「⑩黒潮の潮騒をきく道」概念図（千葉県環境生活部自然保護課）



長者町駅はなんとも地方色豊かな駅だね、待合室のベンチで弁当を広げ、12時15分出発する



午前中歩いた江東橋に行くのだが、道を変えて直接和泉浦の海岸目指して歩く、自動車道路より安全



海に面した国民年金保養センターは既になく、海洋センターが新しく生まれた



現在工事中であるがトロピカルムードの作りとなっている、夏になると海水浴客で一杯だろう



ここから「九十九里一宮自転車道」が始まる。夷隅川河口から塩田川の河口まで、4kmの全面舗装のサイクリングロード



防潮堤沿いの防風林の間を歩く、今の時期自転車は来ない



道の傍らには里程標もある、砂に埋もれなければ良いが、心配だ



自転車道ではあるが県道となっている。海風も心地良いし、潮騒の音も子守唄の様だ



やっと海岸に出た。午前中は砂浜を歩いたから、午後は舗装道路を歩く



海辺に来ると風もあり飛砂が耳に入る、ここにはフェンスがあるが、意味が分からない



道が半ば砂に埋まってる所もある、自然の事だから仕方無いか



海際を離れると、防砂林の中を通り抜ける。潮騒から遠ざかるが、静かに歩ける



4kmの日在浦（大原海岸）サイクリングロードが終わると



塩田川を一路橋で越える



川の畔に「真実一路の広場」がある 山本有三（小説家）ゆかりの場所となっている  
昭和9年、彼はここに滞在して小説「真実一路」を書いた。



このレリーフには文章の一説が刻み込まれている

”海面に夕靄（ゆうもや）がおりかけて、水も雲も一つのようにネズミ色に染まって行ったが塩田川の川かみのあたりだけは、入り日の反射でぼうーと明るく光っていた”



塩田川に沿って遊歩道を歩き、大原駅に向かう



大原駅 14:25 ゴール。



14時50分の「特急わかしお号」に乗れば、1時間20分で東京駅に着く

[参考タイム] 外房線長者町駅 (12:15) →いすみ海洋センター (12:50) →真実一路の碑 (14:00-14:15)  
→JR大原駅 (14:25着、電車14:50わかしお4号14:50発) →東京駅16:05

実績: 10.3km/歩行2:15 この項完

「関東ふれあいの道 (千葉) ⑰御宿海岸を歩くみち」に続く